

投与プロトコール 1コース 21日間 制限なし 《開始時基準 PS:0~3(4) 100歳以下》		投与量	投与日	投与時間	備考
①	生理食塩液 デキサート注 6.6mg/2mL	100mL 5V	Day1, 4 8,11	30分 点滴	開始後、Drへ連絡 (ベルケイド投与)  Drにて投与
②	ベルケイド 1.3mg/m <sup>2</sup> 生理食塩液	mg 1.2mL	Day1, 4 8,11	皮下注	

<使用上の注意点>

- ◆デキサート点滴開始後、すぐにDrにベルケイドの投与を依頼する。  
デキサート点滴終了までにDrが間に合わない場合は、ベルケイド投与後、生理食塩液20mLでフラッシングする。
- ◆デキサートは内服(レナデックス)でもよい。

【ベルケイド】

- ◆末梢神経障害に注意。
- ◆治療初期は、急性毒性症状の発現について、1~2時間経過観察を行う。
- ◆息切れ、呼吸困難、胸水、咳、発熱などの症状が発現することがあるので注意する。  
投与日から翌日にかけて発熱の可能性がある。発熱が持続する場合や呼吸器症状を伴う場合には、肺障害の可能性についても注意する。
- ◆心障害の既往や症状の危険因子の確認を行う。
- ◆起立性低血圧、低血圧が発現することがある。
- ◆高尿酸血症の予防のため、水分摂取を心がけ、予防のためザイロリック等を投与することがある。

<調製時の注意点>

【ベルケイド】

- ◆他剤との配合は不可。
- ◆調製後および投与中は、遮光の必要はない。(保管時は、遮光にて保存。)
- ◆溶解後は、8時間以内に使用すること。
- ◆他の薬剤が投与されているルートを用いての投与は行わない。
- ◆延長チューブを用いて投与した場合は、投与後生理食塩液20mLでフラッシングする。